

理研会報

発行
印教研理科研究部
事務局
成田市立成田小学校
成田市幸町948-1

一〇・一 印教研 理科研究部集米△云

盛△云に終わる

今回は十月一日に行われました
印教研集会の特集号です。講評と
会員の声を掲載いたしました。

小学校低学年 講評
印教地方出張所 高橋 正昭

この度の低学年の提案は、四提
案ありました。いずれの提案も新
しい理科教育実施の中で解決して
いかなければいけない課題であり、
有意義な集会でありました。

まず、午前の五部会の「感動を
呼び起こす理科指導」は、研究初
年度ということで、研究の方向性
や実態調査が中心でした。三、四
年の理科教育の扉に立つ子ども達
が、自然現象へ感動し、積極的に
働きかける方策について今後の研
究に期待したいと思えます。

次に、一部会の「環境教育」へ
の取り組みについては、理科教育
のみならず全教育活動で実践しな
くてはいけない大きな課題です。

研究二年次目ということで、直結
・基本・関連型に分類した年間指
導計画による授業実践は、環境教

小学校高学年 講評
吉岡小 安井 寅蔵

本年度の提案の特徴を一言する
と、情意面に視点を当てての理科
学習指導のあり方に関する研究と

言えると思う。

・感受性を豊かにする工夫。・理
科の心情を育てる工夫。・環境に
敏感な目をもたせる工夫。・興味
関心をもたせる工夫。以上は各部
会の主題の要約である。各部会と
もグループ研究を重ね、特徴ある
わかり易い提案であつたと思う。

提案の中で気づいたこと

一、感動とか感受性とかは、ひと
まとまりにとらえ、連続性をも
つたものを大切にしたい。

今の児童が短時的、刹那的にや
ることはあつても連続性をもつた
ひとまとまりの経験をすることで弱
さをもつことを指摘して、今回の
改定でも問題解決というひとまと
まりの経験を大切にしている。

一、経験を大切にすると、植物
教材は、可能なかぎり、播種か
ら手掛けた。

一、それぞれの研究に際し、仮説
とのかかわりで、成果をどう見
定めるか、評価の方法がより検
討されるとよい。個を大切にす
るならば、兆候チェックによる
評価も考慮されたい。

一、教研集会といえども新しい理
科指導のあり方を求め、豊かな
発想を会員に提供されたい。

おわりに、新学習指導要領に基
づくならば、自分でわかる理科、
自分で調べ、説明する理科への転
換が大切であり、それは一斉指導
から個別指導への転換でもある。

ある部会の「個を生かす授業形態
の研究」に期待がかけられる。

中学校 講評
小林中 今井 和彦

△一部会▽ 新たに指導要領で
取り上げられた、特に実験観察の
むずかしい、「遺伝・発生」の分
野において、生徒の観察・実験と
して扱える教材の開発の試みであ
る。遺伝・分裂・発生等の観察・
実験の教材化だけでなく、栽培・
飼育にまでふみ込んだ実践的な発
表である。

△四部会▽ 環境保全に主体的
に取り組む態度をめざした研究で
ある。理科は、環境教育に関わる
ものが多い、また、環境教育その
ものとも言える。科学的な見方・
考え方ができれば「わかる」「心
がいたむ」更に「自分・自分たち
はどうあるべきか、どうすべきか
は人間としての生き方・あり方
で意識させた指導を期待したい。

△五部会▽ 生徒が環境問題を
自分の生活に結びつけ、身近な問
題として、意識化・継続化をはか
った研究である。「地球と人間」
の指導計画が一年間を見通して作
成され、その指導内容も示されて
いる。今後、授業実践を通して、
改善されることを期待したい。

△三部会▽ 身近な物質を用い
直接体験を重視した新しい実験観
察の取り組みである。身近なもの
をより身近なものとして活用し、
主題に迫ろうとする試みである。

△二部会▽ 新しく導入された

「光」教材のパソコンを効果的に
活用した意欲的な研究である。ア
ンケートに現れた生徒の実態を授
たい。

小学校低学年分科会

神宮寺小 小川より子

私は、今、生活科を経験してき
た三年生を受け持ち、つまづくこ
とばかりである。その意味で、楽
しみに参加させていた。

各部会の発表は、新しい指導観
を受けて、体験学習を重視し、自
然を愛する心情を養うことにねら
いを置いた取り組みが多かった。

今までも、感動する授業をした
い、意欲的に問題を解決してい
く子、自然に働きかける子どもを
育てたいと願ってきた。今、あらた
めてその重要性を再認識したので
ある。各部会の提案を持ち帰り、
是非自分の実践に生かしたい。

欲を言えば、もつと子どもの姿
が見えた方がよかった。子どもの
姿が記録されてこそ、次年度の子
どもの姿がわかり、主題の重要
性が実証されるからである。

小学校高学年分科会
南山小 浦島 昌子
今年度参加して感じたことは、
環境を取り上げている提案が目
についたことです。また、今までは
教材・教具の工夫といった研究が
多くあつたように思いますが、今
年は、感動や興味・関心を高める
といった観点からの発表がありま
した。講師の先生より、評価が難
しいとの課題を示されましたが、

業の中でどう克服し、結び付けて
いくか、今後の課題として生かし
たい。

△部員の 士戸

中学校分科会

白井中 古谷 薫

期待どおり、新しい学力観に基
づいた授業づくり、そして、新し
く導入された分野の指導法につ
いての新鮮な情報を得ることがで
きました。

特に興味深く感じた点は、「五
部会の理科的心情を育てるという
心の情を育てる視点」「四部会
のミノムシ・ツバメ・スギが環境
の指標生物になるか否かの点」「三
部会の過去五年間の研究をこれか
らの指導に生かそうとする視点」

「二部会の光の実験観察にパソ
コンのシミュレーションを補助的
に関連させる視点」「一部会のア
フリカツメガエルの飼育」です。
いただいた百六十五ページに及
ぶ発表資料を、折にふれて開き、
これからの授業づくりに活用して
いきたいと思えます。